

たんぽぽ

2024年度 第

6 号

No.341



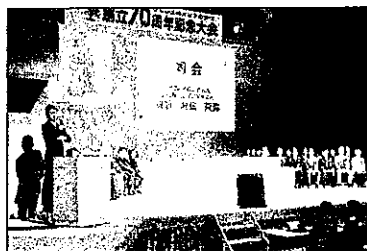
<https://jsl-tampopo.amebaownd.com/>

世聴協70周年記念大会

2月9日(日)世田谷区民会館でNPO世田谷区聴覚障害者協会の創立70周年記念大会が行われました。

サークルたんぽぽは^{よういん}要員として、前日の8日(土)から記念品^{ふくろづ}袋詰め作業や会場の^{せつえい}設営準備をしました。

大会当日とパーティー（地下の集会室）までの2日間、お疲れ様でした。



大会前日



大会当日





2024年度第4回講演会（1月28日しゃれなあと）

「ナラティブの視点で語る ろうのがん患者学」

皆川 明子 氏／がん経験者

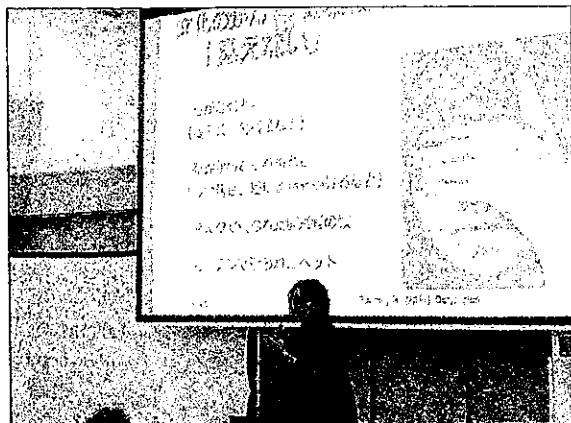
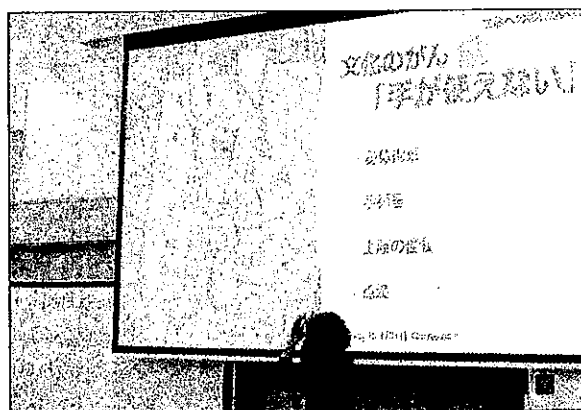
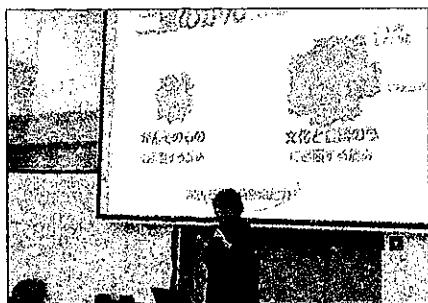
聴覚障害の皆川さんは乳がんを経験されました。病院の受診や入院で困った事、不便だった経験を話され、聞こえない人の望む事や医療機関の現実を、あらためて知らされました。

手話通訳者は同行してくれても24時間いるわけではなく、筆談してもなかなか意思疎通が取れない、MRIや点滴などでは手（手話）が使えないなど、もう一つの病気、文化の

“がん”のために不安の状態が続いたようです。

ろう患者さんが納得安心できるような病院の環境作りが求められます。

スライドに出てくるイラストが患者さんの気持ちをよく表していました。





2024年度第5回講演会 (3月4日しゃれなあと)

「百名山と私」

田村 和彦 氏／東京ろうあ者山の会 企画担当

東京ろうあ者の山の会で2022年10月「^{あだたらやま}安達太良山」の登頂で
百名山を制覇^{せいはい}され、メンバーからお祝いを受けられました。

ここに^{いた}至るまでの登山のお話を聞きました。

所属する山の会にはたんぽぽメンバー (3名) がいます。

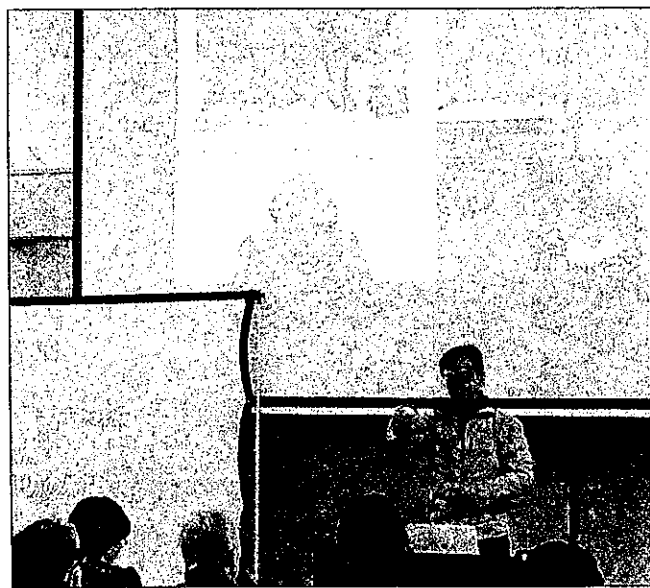
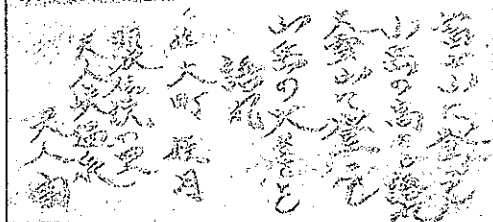
2009年トムラウシ山 (北海道大雪山の一つ) で悪^{あく}天候による大きな遭難事故があり、ル
ート変更で^{あさひだけ}旭岳に登頂したけど、後年に再挑戦でリベンジできたそうです。

「富士山で山の高さを、大雪山で山の大きさを」という名言が印象的でした。

初登山の^{やりがたけ}槍ヶ岳から^{りしりやま}利尻山 (利尻島)、^{はっこうだやま}八甲田山、^{かみこうち}上高地、ダイヤモンド富士まで山の
素晴らしさを紹介して下さいました。

百名山制覇からの次の目標も、ゆっくり^{とざんげざん}登山下山されるとの事。まさに山あり谷ありの
登山人生のお話でした。

104年前、大岡校丹(おおむら けいげつ) 諸人は大雪山に登
り、富士山に登って山岳の高さを語り、大雪山に登って山岳
の大きさを語ったという名言を熱した。



耳の日記念文化祭

2月22日(土)23日(日)東京都障害者福祉会館^{こうれい}で恒例の文化祭がありました。

毎年3月3日に近い土曜と日曜の2日間、港区の三田で開催されています。

別会場にみなとパーク芝浦リーブラホール（講演やたましろの郷なかまの発表など）2つの会場です。



1日目の22日に行ってきました。

←開場時間になると皆真っ直ぐ書籍販売へ！

一般本屋には無いので、すごい混雑でした。

模擬店うどん（たましろの郷後援会）とカレーライス
（すぐに完売！）\



✓

デフリンピックのPRパネルが多くありました。



福祉の機器や聴導犬などなど…毎年開催していますので、
来年は皆さんもぜひ遊びに行ってください。

たましろの郷後援会会員募集！

新年度に向けて会員を募集しています。既に会員の方は更新をよろしくお願いします。
会員の皆様の力が、後援会の力となり、ろう重複者（なかま）を支える力となります！

会費1口 3,000円

（年度会費：「たましろの郷ニュース」年間購読料^{こうどく}含む^{みく}）

詳細は、たんぽぽのせたま委員にお問合せください。

たましろの郷後援会HP →



◀せたま委員会のミニのぼりが完成！

今後、イベントなどでPRのために使用していきます。

- 後援会の球根^{きゅうこん}を買っていただいた方から
「花が咲いた」という報告がありました。
花は「スノードロップ」





たんぽぽ創立50周年

記念講演 & パーティー

5月5日(月・祝)

●会場

世田谷区民会館 集会室

●プログラム

受付 10:30～

第1部 11:00～ 式典

記念講演 五十嵐 由美子 氏

「ろう者を取り巻く50年と、これから－ろう俳優として生きて－」

休憩 13:00～

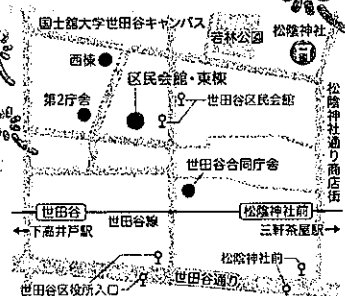
第2部 14:00～ パーティー

●会費

第1部 1,500円 (定員120名)

第2部 3,000円 (定員120名)

記念品あり



世田谷区手話サークルたんぽぽ

創立50周年実行委員会

連絡先 tanpopo50.setagaya@gmail.com

お申し込みはメールでも受け付ます



●各委員会の活動報告と予定 ※詳しくは各委員にお問合せください

たましろの郷世田谷委員会	2月 3日(月)委員会 3月27日(木)委員会	2月22日(土)23日(日) 耳の日記念文化祭 6月7日(土) たましろフェスタ
防災委員会	活動無し	
参政権	活動無し	
都サ連	2月16日(日)担当者会議 4月20日(日)担当者会議	2月22日(土)23日(日) 耳の日記念文化祭
土の会本会議	3月29日(土)	

●行事实行委員の報告と予定 ※詳しくは各委員にお問合せください

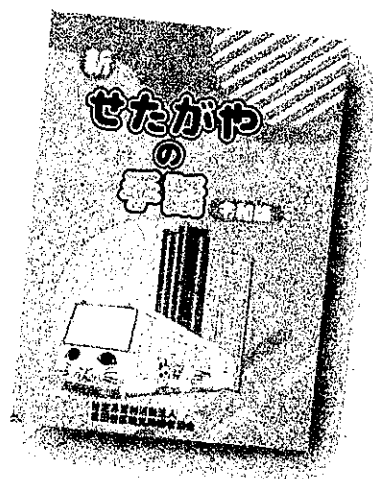
雑居祭り	報告無し	来年度は10月12日(日) 羽根木公園
土の会 X マス交流会	2月20日(木)反省会	

●その他の報告

せたがやの手話製作委員会	↓下記の通り	2月9日(日)世聴協70周年 大会から一般販売開始
たんぼぼ50周年実行委員会	2月28日(金)委員会	チケット販売開始 2025年5月5日(月祝) 世田谷区民会館

「新せたがやの手話<令和版>」が完成！
世田谷区の地域手話表現の本を20年ぶりに改訂しました。

価格：1,650円（本体1,500円＋税10%）
購入希望者は NPO 世田谷区聴覚障害者協会へ



編集後記

世聴協70周年記念大会が2月に素晴らしく行われました。
この次は5月の手話サークルたんぼぼ50周年記念大会です。
着実に準備に向かっていきます。
こちらも盛り上げていきましょう！

'25. 2. 16

都サ連通信

発行 東京都手話サークル連絡協議会

代表 高田 直樹

http://tosaren.jp

tosaren_info@ybb.ne.jp

FAX : 03-3961-2445

『一日研修会』報告

2025年1月26日(日) 日本大学文理学部 国際会議場をお借りして開催しました。

参加者は、会員 139 名 一般 4 名 招待 1 名
情報保障関係 10 名 計 154 名でした。

午前の部の講師は廣川麻子氏。日本ろう者劇団の狂言などでご存じの方もいると思いますが、演劇を更に学ぶために渡ったイギリスで、ほとんどの舞台に舞台手話通訳や字幕がついており、いつ・どこで・どのような出し物を行っているか、ネットですぐにわかるようになっていることにカルチャーショックを受けたそうです。

日本に戻ってTA-net (ターネット) という団体を立ち上げ、「同じ作品を」「同じ時間に」「同じ空間で」一緒に楽しむ」を目指して、舞台手話通訳者の養成に携わるようになったとのことでした。

講演の後半では、実際に養成講座に使用している「メゾン」という教材で、ミニワークショップを行いました。1人のセリフ、2人での会話、3人での会話の3パターンを、グループで相談した後、1人前に出て、映像のセリフを聞きながら舞台手話通訳のさわりを体験しました。実際には、演出家や役者と一緒に舞台を作る過程から加わっていくとのことですので、短い時間ではなかなか上手くできませんでしたが、アンケートでは、とても評判が良かったです。「他の地域の方とグループで話せてよかった。」「話を聞くだけでなく体験したことで、より実感できた」「もう少し時間を取ってじっくりやりたい」などの声が寄せられました。

午後の部の講師は板橋弥央(みつお)氏でした。男組5人の中で一番背の高い方です。まず、年代別写真付きで、幼少期から学生時代までの「生い立ち」から始まりました。

表情が豊かで、お話しが上手で、関東ろう学生懇談会などでいつも司会を頼まれたというのも納得です。

砂田アトムさんに憧れて、演劇の世界に飛び込んだとのことですが、もともと話術の素地があったのですね。

日中友好で行った中国では胡錦濤氏の握手が力強かったこと、手話通訳をしてくれた美女が、砂田氏が憧れていた「千手観音」のダンサーで、代わりに握手をして、帰ってから砂田氏とその手で間接握手をしたことなど、沢山のエピソードを笑いを交えてお話ししてくださいました。近くにスクリーンがあるためか、板橋氏の顔が陰になり、折角の表情が見づかったのが少し残念でした。

アンケートの回答は、どちらの講演も「大変良かった」「良かった」のみで、お一人だけ「普通」がありました。理由は、自分が勉強不足で難し過ぎたというものでした。

今回は空調の問題はなく、快適な環境でゆっくりと楽しめました。

(報告 河野)

『第一回デフリンピック機運醸成会議』報告

2025年1月16日(木)19:00~21:00。場所は三田の東京都障害者福祉会館にて『第一回デフリンピック機運醸成会議』が開催されました。都サ連もデフリンピック推進委員会のメンバーとして参加しました。かなり間際の開催連絡にもかかわらず、15区13市の代表者が集まりました。

東聴連は今まで東・西・南・北ムーブメント、豊洲や都庁でのイベントなどを通して感じた問題点。①自治体に対してろう協が普段お付き合いをしている障害・福祉課と今回デフリンピックを担当するスポーツ課との連携がうまくいかなかった事があった。②東京都のデフリンピック補助金について都内の全区市のろう協に情報が伝わらなかった。③デフリンピックを知らない一般聴者へのPRが足りなかった。④東京都に任せておけばデフリンピック自体は成功するだろうが、このままではろう者として次の世代に引き継ぐレガシーが残らないなどからこの会議を毎月1回開催するという事です。(と言いながら2月は諸事情により開催されません。)

埼玉県、千葉県、神奈川県などのデフリンピック周知活動の事例紹介があり、自治体との連携が強調されていましたが、各県とも競技開催地ではないことから闇雲にデフリンピックを強調するのではなく、デフリンピックを通して(利用して)聴覚障害への理解を深め、その延長線上にデフスポーツがあるという考え方に基づいているように思えました。

全日ろう連の倉野氏より、詳細は言えないが3月に超大規模のイベントを企画中なので協力をお願いするかも?との発表がありました。...と言われても詳細や日程がわからないイベントのために3月の予定を空けておくのは難しいと思いました。また漫画「ワンピース」などを描いた漫画家による寄せ書きプロジェクト構想も発表されましたが、構想のままで終わりそうで心配です。

(報告 藤井)

第54回耳の日記念文化祭は

2月22日(土)・23日(日)

東京都 障害者福祉会館と
港パーク芝浦 リーブラホールの
2か所の会場で開催されます。スローガンは、『デフリンピックだ！みんなで新しい
社会を創ろう!!』スペシャルゲストの山田真樹選手(陸上)、辻 悠佳
選手(オリエンテーリング)、桂 佳子選手(射撃)
のオリンピックが熱く語ってくださいます。デフリン
ピックの歴史や東京 2025 デフリンピックの概要など
の展示も充実しています。2日間でデフリンピックを
たっぷり感じてください。デフリンピックのボランティア
に応募された方もたくさんいらっしゃいます。例年人気の書籍販売や占いコーナー、模擬店、
バザーも勿論あります。ナイトバー?...残念ながら
今年は(も)お休みです。要員に手を挙げてくださった皆さま、チケットを買って
くださった多くの皆さま、ありがとうございます。
ふたつの会場の行き来に10分以上かかります。
どうぞ暖かくしてお出かけください。

(実行委員 杉本)

「全国の都道府県手話サークル連絡協議会
ウェビナーによる講演会」について都サ連担当者会議ではその都度報告をしてきましたが、
現在全国の都道府県手話サークル連絡協議会の懇談会は、
24の都道府県の会長や役員の方々と、ラインでの情報
交換や ZOOM での顔を見ての懇談会を実施しています。昨年2月17日に第7回の懇談会を行いました。が、
第8回の懇談会ができないまま、まもなく一年が経とうと
しています。そんな折、熊本県手話サークル「わかぎ」
から、ソロプチミスト日本財団「社会ボランティア活動表
彰」を熊本県手話サークル「わかぎ」人吉・球磨グループ
と北海道石狩市「ひまわり手輪の会」が受けたという報告
がありました。このお話は、日本聴覚障害新聞に掲載させ
ていただきました。同じ手話サークルの仲間の表彰はとてもうれしいのです
が、地域サークルがどのように地域に根差した活動をして
いるのかとても興味を持ちました。今回の懇談会は、役員
の方だけでなく、全国の皆さんに話を聞いてもらいたい
と、人吉・球磨グループと石狩市「ひまわり手輪の会」に
お願いをして、ウェビナーでの講演会を実施しました。都サ連加盟サークルにも試聴の案内をしました。2月
1日は23都道府県から関係者を含めて180名近くの方
に視聴していただきました。視聴されたみなさまありが
うございました。今回は熊本県手話サークル「わかぎ」のご尽力もあり、
ZOOM ウェビナーで対応していただくことができ、全国
の手話を学ぶ仲間をリモートでつなぐことができました。また、情報保障をつけてほしいということで、手話
通訳者2名を都サ連にお願いしました。ありがとう
ございました。皆様のお力添えでこの講演会が成立
することができました。もう一つ無理を言ってお願いしたのは、群馬大学
教授金澤貴之先生です。とてもお忙しいのですが、
短い時間で「手話サークルの今後の展望について」
お話を頂戴しました。先生のお話は、『授業以外の場で、自分で手話を
使う場を見つけるという課題を出している。手話を
学ぶ学生と地域サークルのつながりを大切にするこ
とが、地域の手話サークルの活性化につながるのだ
と思う。手話施策推進法を超党派で議論している。
この法律をデフリンピックの前に成立させたい意向
がある。』などなどでした。短い時間でしたが多岐
にわたるお話で、有意義な時間を持つことができま
した。

(報告 高田)

皆さんは、東京都が募集したデフリンピックのボラン
ティアに申し込みましたか？私もメ切り間際に申し込みをしまし
たが、皆さんが申し込んだとき質問項目に違和感を感じま
せんでしたか？この申し込み項目ですが属性(聴者・ろう者・難聴者・中途
失聴者など)を選択する項目がないことから、障害のある
人にかかわらずすべての人に対して質問していて一見バ
リアフリーのように見えますが必須回答である英語のレ
ベルの回答欄には日常会話レベルという選択肢があり、こ
こでいう英語とは音声英語であることがわかります。つ
まり音声英語のレベルをろう者・難聴者・中途失聴者
にも聞いている訳です。また日本手話言語なもののレ
ベルにいたっては通訳の経験があるが選択肢の一番上
にあります。これらの質問項目からは音声を前提に聞
こえることがいいことだというオーディズム(聴能主
義)を連想してしまうのは考えすぎなのでは
なか？Q15で「なにか配慮することはあるか」との質問
がありますが「あり」を選ばない限りQ16はできませ
ん。Q16で配慮をお願いする項目が出てくるので
その一番初めの例が「耳が聞こえない」でした。
ろう者のためのデフリンピックなのにボラン
ティアの申し込みにろう者自身が配慮を申し出な
ければならない事って「ふてほど」(不適切にも
ほどがある)だと思います。ただ、偉そうな事を
いっている私もろう者の友達から指摘される
までこの事に気づかずにいました。手話を通じ
てろう者に寄り添ってきたと思っていました
が単なる自惚れだったことを痛感しました。ボランティアの申し込み数ですが1月末時点で
6万を超えたというわけがありますが、もし本
当なら嬉しいですね。11/23の赤羽でのイ
ベントで東聴連の栗野会長から自らデフリン
ピックボランティアに申し込んだとの発言
がありました。ちょっとびっくりです。デフリン
ピック期間中東京都も全日ろう連も東聴
連をあてにしていると思うと寂しいです。ろう者が主役のはずのデフリンピックがいざ蓋
を開けてみたら主役はろう者でももちろん聴者
でもなく IT だった！なんてことがないとい
いと思います。

(副代表 藤井)

今後の予定 活動時間 19:00~21:00 ※予定は都合により変更になることがあります

●4月

1	火	例会: 全体会	18(金)相談会
8	火	例会: 全体オリエンテーション	
15	火	例会: 班活動	
22	火	例会: 学習	
29	火	休み	

●5月

6	火	休み	5(月祝) 50周年記念大会 16(金)相談会
13	火	例会: 全体会	
20	火	例会: 班活動	
27	火	例会: 学習	

たんぽぽマップ

例会: 毎週火曜、夜7~9時
(見学はいつでも自由で、直接会場へ)

手話サークル機関誌 たんぽぽ
発行日: 2024年3月25日(火)
発行: 手話サークルたんぽぽ
発行責任者: 大原 和男
たんぽぽホームページ
<https://jsl-tampopo.amebaownd.com/>

講演会 問い合わせ先:
世田谷区教育委員会事務局 生涯学習課
Tel.03-3429-4259 (Fax.03-3429-4267)
講演会以外の問い合わせは直接例会会場まで

